

■ 編集だより

編集後記

10月7日からパプア・ニューギニアに行ってきました。教室員のT・Y君が外務省の医務官をしており、パプア・ニューギニアの日本大使館に赴任しているので行ってきました。赤道より少し南のニューギニア島の東半分を占め、首都はポートモレスビーです。成田から週2便直行便が飛んでいます。飛行時間は6時間です。自然は美しいのですが、とにかく治安が悪いのです。ホテルから一歩たりとも歩いて外出ができません。ホテル内でも襲撃される場合があるそうです。まさに治安を買うという感覚でホテルを選ばなければなりません。T・Y君が、JICAでのメンタルケアの講演、精神科病院の見学と郊外の観光を企画してくれました。まずは精神科病院ですが、国立のLaloki psychiatric hospitalが唯一のものでした。収容人数も60名(100名まで収容できるとの説明でした)です。人口800万人の国で、たったの60名しか収容施設がないというのが実情です。精神科医もたったの8名です。6割が統合失調症とのことですが、大半が薬物がらみの印象でした。街中で弱い作用ながら幻覚を誘発する果実が売られており、石灰とその果汁を混ぜると幻覚作用が出現するようです。その果実の販売を生活の糧にしている人たちが町中に氾濫しているのです。しかも1個15円で販売され、1日に10個程度売れば生活が成り立っているようでした。収容患者の3分の1が急性期でしたが、一部屋に収容され、悪臭が漂っており劣悪な環境下でした。慢性期病棟は比較的ましでした。個室になっており、昼間は施錠で夜間開放になるという、摩訶不思議な処遇環境でした。ほとんど精神科医療がなされていないというのが実情です。

観光に関しては、小舟で30分程度の距離にある島に行き(小さな島ですので治安は大丈夫でした)、民家で現地の昼食をごちそうになりました。ごはん、サツマイモと全く甘味のないバナナに魚と野菜のカレーがメニューでした。デザートは熟したバナナにココナッツミルクを掛けたものが出てきました。美味しく頂戴しました。昼食前に1時間ほど、下は海水パンツ、上は半袖のポロシャツを着用して海岸の砂浜を歩いただけでしたが、その日の夜から太陽の光に直接あたった部分が火傷に近い状態になり、今は四肢の皮膚が剥けてボロボロの状態になっています。

もう1つの観光は、素晴らしいものでした。朝5時にホテルを出て山岳部まで約1時間の行程で野生の極楽鳥のダンスを見に行きました。早朝にオスがメスに求婚のダンスをするのです。なかなか見られないようですが、専門家のガイドに案内されて到着するなり素晴らしいダンスを見ることができました。

それ以外に中嶋敏全権大使を表敬訪問し会食をさせていただきました。来年APECが当地で開催されるとのことで、非常に張り切っておられたのが印象的でした。

日本の精神科医療を、発展途上の国と比較すると、最近の充実ぶりは目を見張るものがあるという印象を強く受けました。いよいよ専門医制度がスタートします。精神科医療の益々の発展を達成しようではありませんか！

木下利彦